

令7 高等学校書道(6枚のうち1)

(解答はすべて、解答用紙に記入すること)

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

現存する最古の漢字は亀甲や獣骨に卜占の結果を刻した(①)時代の(②)である。(①)時代末期には、(③)に
^I 鑄込まれた銘文が誕生した。(④)時代以降、古代の中国では(③)が盛んに作られた。秦の(④)は天下統一をした後、
 度・量・衡の統一などと合わせて、水平垂直で線の太さが均一な(⑤)を標準字体として制定した。
^{II} 漢時代には、横画や右払いの(⑥)に装飾的な波勢や波磔がある隷書(八分)が現れ、毛筆特有の表現が開花した。隷書には、
 波磔のない素朴な書である古隸や、「札器碑」(⑦)、「張遷碑」などの碑に見られる多様な八分、(⑧)などに残されている
 日常で使われていた肉筆の隷書がある。(⑧)や帛書などで日常的に使用されていた草書や行書は三国時代以降になると実用性だ
 けではなく、美しさも求められるようになった。東晋時代、(⑨)・(⑩)親子が登場すると、草書や行書は芸術として洗練さ
 れた。書聖とされた(⑨)の真跡は現存していないが、様々な臨模や拓本により現在でもその書風を知ることができる。
^{III} 楷書の特徴である(⑪)の筆法は、三世紀には見られるようになり、五世紀以降の(⑫)時代では、刀意を生かした楷書が
 発達する。唐時代初期、^V 初唐の三大家によって楷書は完成の域に達した。唐時代の中期には(⑬)がのちに明朝体のもとになっ
 た^V 革新的な書風を開拓した。草書においては、(⑭)が「書譜」を著して正統的な書法の集大成ともいべき書風を示す。その後、
 張旭・懷素の(⑮)とよばれる自由奔放な筆勢の草書が現れた。

問一 文中の空欄①～⑮に当てはまる適切な語句または人名を、それぞれ漢字で書きなさい。ただし、同じ記号には同じ語句または人
 名が入る。

問二 祭祀や儀式に用いられた、次の図版A～Eの種類と用途を、あとのア～サからそれぞれ一つ選び、その符号を書きなさい。

種類	ア 盤	イ 鼎	ウ 缶	エ 鐘	オ 爵
	カ 武器	キ 食物を煮る器	ク 酒をため運ぶ器	ケ 水を張る器	コ 酒を温める器
用途					サ 楽器



図版A



図版B



図版C



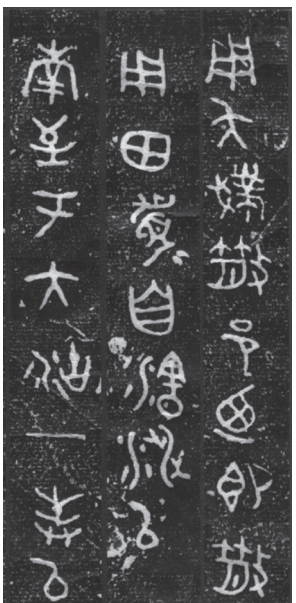
図版D



図版E

問三 線部Iについて、鑄込まれた銘文を何というか、漢字二字で書きなさい。

問四 次の図版Fの古典名と下の釈文の空欄⑬～⑲に当たる文字を、それぞれ楷書で書きなさい。ただし、同じ記号には同じ文字が入る。



図版F

【 釈 文 】
 (⑬) 矢 撲 (⑭) 邑 。 迺 (⑮) (⑯) (⑰) (⑱) 于 大 沽 。 一 封 。 (⑲) (⑳) (㉑) 南 。

問五 線部IIについて、波磔のない素朴な隷書の古典名を一つ、漢字で書きなさい。

問六 線部IIIについて、書聖とされた人物の古典名を二つ、漢字で書きなさい。

問七 線部IVについて、初唐の三大家の人名と、それぞれの代表的な楷書の作品名を一つ、漢字で書きなさい。

問八 線部Vについて、革新的な書風を何というか、漢字で書きなさい。また、その書風について具体的に説明しなさい。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

北宋では科挙を経た(①)が政治や文化で活躍した。蘇軾・黄庭堅・米芾らも(①)である。元時代には、二王の書法への
 復帰を唱えた(②)の典雅な書風が一世を風靡した。明時代末期から清時代初期は、(③)という縦長の作品が流行し、中
 でも倪元璐・王鐸・傅山らが^{II} 草書を書き連ねる新しい表現で活躍した。清時代初期は『三希堂法帖』が編纂されるなど、
 Ⅲ 古典研究が盛んになり、^{IV} 銘文を研究する(④)学も発展した。中期になると、鄧石如・呉讓之(熙載)・金農などが、新しく多様な表現
 を作り出した。

問一 文中の空欄①～④に当てはまる適切な語句または人名を、それぞれ漢字で書きなさい。ただし、同じ記号には同じ語句または人
 名が入る。

問二 線部Iについて、次の問いに答えなさい。
 (1) 後世に影響を与えたこの三人を何と呼ぶか書きなさい。

(2) 三人と同時代に活躍し、「謝賜御書詩表卷」等の伝統的で格調高い書風の書を書いた人物を、漢字で書きなさい。

問三 線部の六人の人物と関連する作品を、次の図版A～F(すべて作品の一部)からそれぞれ一つ選び、その符号を書きなさい。

	図版A		図版B		図版C		図版D		図版E		図版F
---	-----	---	-----	--	-----	---	-----	---	-----	---	-----

問四 線部IIについて、草書を書き連ねる新しい表現方法を何というか、漢字三字で書きなさい。

問五 線部IIIについて、法帖をもとに書聖を主とする伝統的な書を継承する一派を何というか、漢字三字で書きなさい。

令7 高等学校書道（6枚のうち2）

（解答はすべて、解答用紙に記入すること）

問六 — 線部Ⅳについて、次の問いに答えなさい。

- 石碑を学び書に新しい息吹を吹き込む碑学派で活躍した下の図版Gの人名を、漢字で書きなさい。
- 図版Gの人物は、「四絶」と称賛された文人で、日本の書道にも大きな影響を与えた。彼が精通したとされる四絶とはそれぞれ何の分野を指すか、漢字で四つ書きなさい。
- 図版Gの人物が生涯、情熱を傾けて臨書した古典は何か、漢字で書きなさい。
- 下の図版H、Iは、図版Gの人物が制作した印である。図版H、Iの印影の種類を、それぞれ漢字で書きなさい。



図版G



図版H

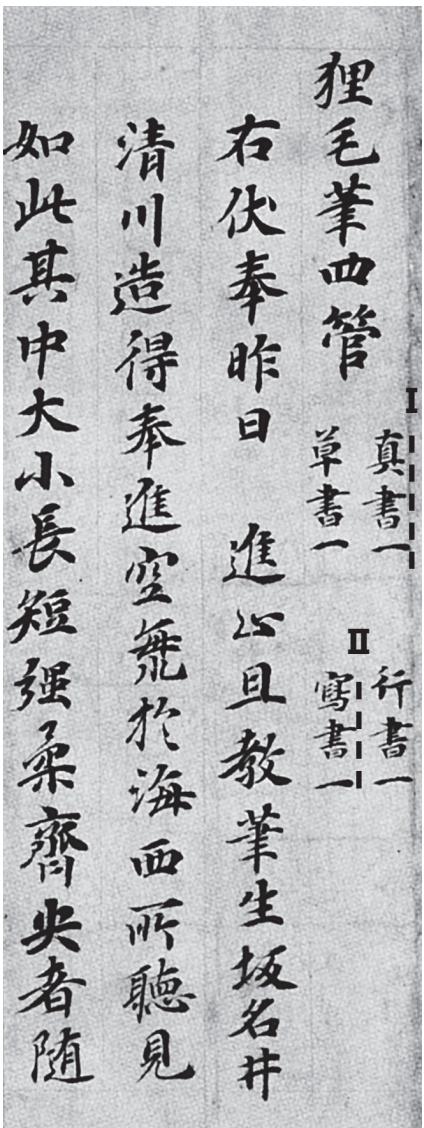


図版I

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

（①）と（②）は、平安時代の仏教界を代表する人物である。（③）は幼少期に出家し、二十一歳で、後に延暦寺と称される寺を創設し、やがて桓武天皇の信頼を得ることとなった。（④）はおじの阿刀大足や大学で儒教を学ぶが、仏教に関心を抱き、山々をめぐる無名の修行者となった。二人は奇しくも八〇四年、遣唐使の第一・二船に分乗して入唐した。（⑤）が還学生という短期視察者であったのに対し、（⑥）は留学生として二十年という長期滞在が予定されていたが、（⑦）は天台仏教の正統を継いで翌年帰国し、（⑧）は真言八祖の資格を授かって、二年余の滞在で帰国した。

二人には尺牘の往来もあり、（⑨）は（①）のもとで修業していた泰範（②の門弟）に（①）への伝言を依頼した書状である。親しい交友があった両者だが、泰範が（②）のもとに戻らなかつたことや密教の解釈の違いが生じて決別に至つたとされる。



図版A



図版B

問一 文中の空欄①～③に当てはまる適切な語句または人名を、漢字で書きなさい。ただし、同じ記号には同じ語句または人名が入る。

- 問二 空欄①の人物について、次の問いに答えなさい。
- 空欄①の人物が伝承筆者として今日に伝わる右の図版Aの作品名を、漢字で書きなさい。
 - 図版Aは、①の人物がある人物に狸の毛の筆を四本献上したことを記した部分である。図版AのⅠ―Ⅰ―Ⅰ線部Ⅰ、Ⅱは何を指すか、組合せとして適切なものを、次のア～エから一つ選び、その符号を書きなさい。
- ア I 隸書 II 楷書 イ I 写経 II 楷書 ウ I 楷書 II 隸書 エ I 楷書 II 写経
- ③ 次の [] の言葉は、空欄①の人物が書いたとされる書物の一文である。大意として最も適切なものを、あとのア～ウから一つ選び、その符号を書きなさい。

良工は先ず其の刀を利くし、能書は必ず 好筆を用う。 刻鏤には、用に随つて刀を改め、臨池には、字に逐つて筆を易う。

ア 良い工人は刀の使い方が上手で、字の上手な人は筆の使い方が上手。用具の使い方とその作品の良しあしが決まる。

イ 良い工人は鋭い刀を使い、字の上手な人は上等な筆を使う。用具の質でその作品の良しあしが決まる。

ウ 良い工人は、刀を手入れし、字の上手な人はよい筆を使う。用具の見極め方でその作品の良しあしが決まる。

(4) 空欄①の人物にまつわる筆についてのことわざを、一つ書きなさい。

(5) 右の図版Bは、空欄①の人物が伝承筆者として今日に伝わっている。この作品名を漢字で書きなさい。

(6) 図版Bの④～⑨に当たる文字を、それぞれ楷書で書きなさい。

問三 平安時代に尊重された唐の書法を基盤としつつも、日本的な個性の感じられる書風を生み出した能書三名を総称して何というか、漢字で書きなさい。

問四 遣唐使が廃止された後、国風文化と呼ばれる日本独自の文化が花開き、和様の書を確立したとされる能書三名を総称して何というか、漢字で書きなさい。

問五 小野道風、藤原佐理、藤原行成の三名が能書として並称された内容が書かれている、藤原教長が藤原伊経に授けた書論を何とよぶか、漢字で書きなさい。

問六 小野道風、藤原佐理、藤原行成について、南北朝時代、尊円親王が三名の書を重んじていたという内容や、初心者 of 学書の心得・方法、尊円親王の書道観が述べられている書論を何とよぶか、漢字で書きなさい。

令7 高等学校書道（6枚のうち3）

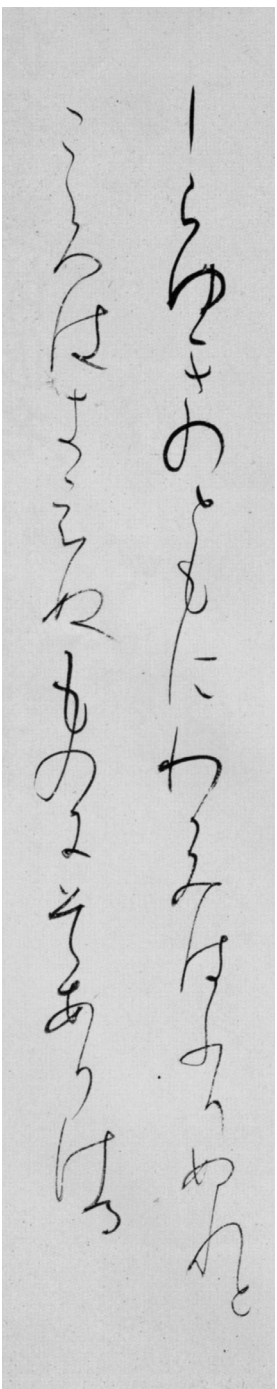
（解答はすべて、解答用紙に記入すること）

四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

『後漢書』の建武中元二年の記事に該当する「漢委奴国王」金印などが示すように、遅くとも一世紀の頃には日本に漢字が伝来した。以後、わが国での漢字学習が進み、五世紀頃には、漢字を一字一音の（①）文字として用いて、地名・人名といった固有名詞が記されるようになった。癸未年銘人物画像鏡はその一例で、これが仮名の始まりとされる。

七世紀半ばには、漢字の音訓を用いて日本語の文章や和歌が書き記されるようになり、奈良時代、八世紀後半の『万葉集』でこうした表記法が集約された。そこで、このような仮名を（②）という。（②）では、例えば「ア」に「安」^I（③）「」等の字をあてるなど、各音にいろいろな字が用いられたため、その数は一千字近くにのぼる。

平安時代には仮名を草書で書くようになり、これを（④）という。（④）をさらに簡略にしたのが（⑤）で、高野切のような優美な仮名に高められた。高野切の筆者は、古くから紀貫之と伝えられている。しかし、現在では、三人の能書によって手分けして書かれた（⑥）と考えられ、書風ごとに第一種・第二種・第三種とよばれている。（⑤）には今の平仮名も含まれる。仮名には古来さまざまな種類と呼称があったが、明治三十三年以降、平仮名（⑦）および（⑧）に区分されている。（⑧）は、義務教育では扱わないが、芸術としての仮名の書では用いられることが多い。また、^{II}日常生活の中でも見かけられる。

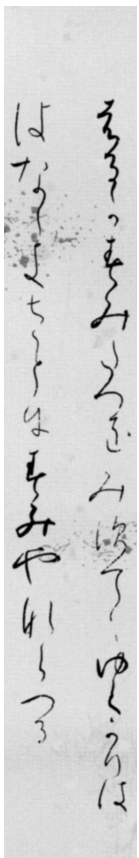


図版 A



図版 C

図版 B



図版 D



図版 E

問一 文中の空欄①～⑧に当てはまる適切な語句を、それぞれ漢字で書きなさい。また、②、④、⑤については該当するものを、次のア～オからそれぞれ一つ選び、その符号を書きなさい。ただし、同じ記号には同じ語句が入る。



問二 線部Ⅰについて、次の問いに答えなさい。

- 「高野切」のように、「○○切」という名前がつけられている古筆名を一つ、漢字で書きなさい。
- 令和六年四月に冷泉家時雨亭文庫が、「高野切」に書かれている歌集の注釈書「顕注密勘」の自筆原本が初めて見つかったと発表した。「高野切」に書かれている歌集名と、この「顕注密勘」の中巻と下巻を書いたとされる歌人の名前を、それぞれ漢字で書きなさい。

問三 線部Ⅱについて、次の問いに答えなさい。

- 右の図版 A は、「高野切」である。高野切第何種か、漢字で書きなさい。
- 図版 A の一行目すべての仮名の字源を、楷書で書きなさい。

問四 右の図版 B、C は、仮名を書くには適した筆である。それぞれの筆の名称を、次のア～オからそれぞれ一つ選び、その符号を書きなさい。



問五 右の図版 D は、短冊に和歌を書いたものである。次の問いに答えなさい。

- 短冊に和歌を書くときの原則として適切なものを、次のア～オからすべて選び、その符号を書きなさい。
 - ア 短冊の上のほうを四分の一ほど空ける。
 - イ 漢字を仮名に必ず変換する。
 - ウ 上の句を一行目に、下の句を二行目に書く。
 - エ 初句、三句、四句目で墨継ぎをする。
 - オ 松煙墨を使用し薄墨で揮毫する。
- 懐紙から短冊は何枚とれるか書きなさい。ただし、懐紙を使いきることとする。

問六 線部Ⅲについて、右の図版 E は、語句が暖簾に書かれたものである。その語句を平仮名で書きなさい。

令7 高等学校書道（6枚のうち4）

（解答はすべて、解答题紙に記入すること）

五 生活や社会における書について、次の問いに答えなさい。

問一 次の文章の——線部について、原則として作者の没後何年か、その期間を書きなさい。
書 の 作品 を 制作 する 時に、題 材 と して 自 分 で 作 っ た も の で は な い 俳 句 や 詩、歌 詞 な ど を 使 用 す る こ と が あ る。そ の よう に 他 人 が 作 っ た も の を 使 用 す る 時 に は、落 款 な ど で 誰 の 作 品 で あ る か を 明 記 す る。ま た、そ の 著 作 物 が 著 作 権 保 護 期 間 を 過 ぎ て い な い 場 合 は、著 作 権 者 や そ の 著 作 権 の 管 理 を し て い る 団 体 な ど か ら 使 用 の 許 諾 を 得 な け れ ば な ら な い。著 作 権 保 護 期 間 が 終 了 し て い る 著 作 物 は、社 会 全 体 が 共 有 す る 文 化 的 財 産 と し て 誰 で も 自 由 に 使 用 で き る が、著 作 権 が 変 わ っ た り、著 作 物 自 体 が な く な っ た り す る こ と は な い。

問二 次のア～エの説明文に合う人物の名前を、それぞれ漢字で書きなさい。

ア 自らの思いを書に託して書いた「信為万事本」を座右の銘にし、実業家として多種多様な会社の設立や経営にかかわった。「日本資本主義の父」と称されている。

イ ポンドや凍らせた墨など、素材と描法に工夫を凝らし、書を、紙と墨からなる現代美術に昇華させた異端の存在であり、「臆横川国民学校」等の作品を制作した。

ウ 明治維新で中心的役割を果たしたが、のちに西南戦争を起こした。「敬天愛人」とは、学問の目的について述べた語であり、これを座右の銘とし書に託した。

エ 一九五八年に故宮博物院（北京）にて「和平友好」の大字を揮毫した。

問三 下の図版Aは、青山杉雨が殷周時代の文字の絵画的要素に着目し制作した作品の部分である。図版Aのモチーフになった平安・鎌倉時代に、擬人化された動物たちが遊び戯れる姿を墨一色の「白描」で描いた、国宝にも指定されている絵巻を何というか、漢字で書きなさい。

問四 次のア～カを、国宝と重要文化財に仕分けし、その符号を書きなさい。

ア 藤原行成「白氏詩巻」 イ 智永「真草千字文」 ウ 伝紀貫之「寸松庵色紙」

エ 伝小野道風「継色紙」 オ 藤原佐理「離洛帖」 カ 伝西行「中務集」

問五 次のア～オについて、施設が所在する都道府県名を、それぞれ漢字で答えなさい。

ア 書道博物館は、洋画家であり書家でもあった中村不折によって開館された博物館で、中国及び日本の書道に関する古美術品、考古出土品などが所蔵されている。

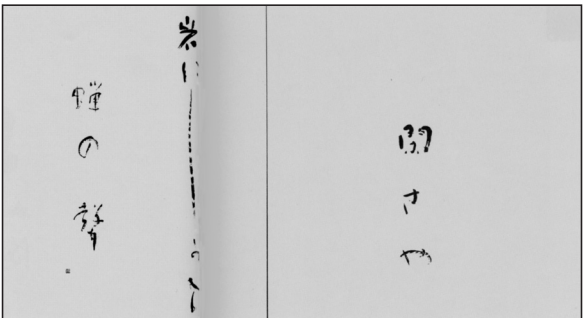
イ 良寛記念館は、江戸時代を代表する禅僧であった良寛の遺墨と芸術を顕彰するために開館された博物館である。

ウ 驥山館は、川村驥山が5歳の時に書いた「大丈夫」、絶筆となった「心」などの書や使った筆、落款印などの資料を展示している。

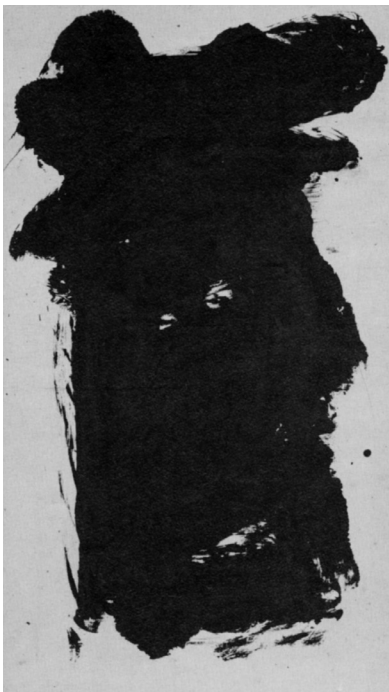
エ 徳川美術館は、徳川家康の遺品を中心に、初代義直（家康九男）以下代々の遺愛品が収められ、また美麗に装飾された料紙が特徴的である源氏物語絵巻が収蔵されている美術館である。

オ 藤井斉成会有鄰館は、殷から清にいたる作品が多く収められており、日本にいながらにして中国を肌で感じられるような美術館である。

問六 次の図版B、Cについて、あとの問いに答えなさい。



図版B



図版C

(1) 図版Bは、小林抱牛の作品で、釈文は「閑さや岩にしみいる蟬の声」である。この俳句の作者名を、漢字四字で書きなさい。
(2) 図版Cは、兵庫県の著名な書家の作品である。作者名を、漢字四字で書きなさい。

問七 篆刻・刻字について、次の問いに答えなさい。

(1) 篆刻に必要な道具として適切なものを、次のア～カからすべて選び、その符号を書きなさい。

ア 印刀 イ セラミックボード ウ 印材 エ 字典 オ 彫刻刀 カ 木槌

(2) 篆刻を行う際、印稿を見ながら墨を塗った印面に朱墨で逆字を布字する方法を何というか、漢字三字で書きなさい。
(3) 刻字について、①文字を彫り残す方法と、②文字を彫り下げる方法を何というか、それぞれ漢字二字で書きなさい。

四

問六	問五	問四	問三	問二		問一			
	(1)	図版B	(2)	(1)	(2)	(1)	⑥	④	①
					歌集名				
			高野切第				⑦	符号	②
			種						
					歌人名				
	(2)	図版C					⑧	⑤	符号
								符号	③

五

問七	問六	問五	問四	問三	問二		問一
(3)	(1)	(1)	ア	国宝		ウ	ア
①							
			イ				年
				重要文化財		エ	イ
②	(2)	(2)					
			ウ				
			エ				
			オ				

令7 高等学校書道解答用紙 (6枚のうち6)

五					

四					

令7 高等学校書道模範解答 (6枚のうち6)

四

問六	問五	問四	問三	問二	問一				
	(1)	図版B	(2)	(1)	(2)	(1)	⑥	④	①
おしるこ	ア ウ	オ	之 良 由 幾 乃 止 毛 仁 和 可 美 波 不 利 奴 礼 止	高野切第三種	古今和歌集	蓬萊切(針切)	寄合書	草仮名	表音
							⑦	符号	②
							片仮名	ウ	万葉仮名
							⑧	⑤	符号
							変体仮名	女手	イ
								符号	③
								オ	阿(愛)

四	46						
---	----	--	--	--	--	--	--

五

問七	問六	問五	問四	問三	問二	問一												
(3)	(1)	(1)	国宝		ウ	ア												
陽刻	ア ウ エ	東京都 松尾芭蕉	ア イ オ	鳥獣人物戯画	西郷隆盛	洪沢栄一												
							①											
							②	(2)	(2)	重要文化財	工	イ						
							陰刻	直接法	森田子龍	ウ エ カ	豊道春海	井上有一	七十一年					

五	38						
---	----	--	--	--	--	--	--